

一般会計予算決算常任委員会記録

平成28年6月22日

【開催日】 平成28年6月22日

【開催場所】 第1委員会室

【開会・散会時間】 午後1時30分～午後3時55分

【出席委員】

委員長	伊藤 實	副委員長	小野 泰
委員	岡山 明	委員	河野 朋子
委員	笹木 慶之	委員	下瀬 俊夫
委員	中村 博行	委員	松尾 数則
委員	矢田 松夫		

【欠席委員】 なし

【委員外出席議員等】

議長	尾山 信義	副議長	三浦 英統
----	-------	-----	-------

【傍聴議員】

議員	岡山 明	議員	山田 伸幸
----	------	----	-------

【執行部出席者】

総合政策部長	川地 諭	財政課長	篠原 正裕
財政課主査兼財政係長	山本 玄	企画課長	河口 修司
文化・スポーツ振興部長	姫井 昌	スポーツ振興課長	川崎 信宏
文化・スポーツ政策室長	船林 康則		

【事務局出席者】

局長	中村 聡	局次長	清水 保
----	------	-----	------

【審査事項】

- 1 議案第60号 平成28年度山陽小野田市一般会計補正予算（第2回）
について

午後1時30分 開会

伊藤實委員長 それでは、定刻になりましたので、一般会計予算決算常任委員会を開催します。本日は議案第60号平成28年度山陽小野田市一般会

計補正予算（第2回）について審査を行います。それでは執行部の説明を求めます。

篠原財政課長 それでは議案第60号平成28年度山陽小野田市一般会計補正予算(第2回)について、まず財政課から総括的な説明をします。今回、追加した補正は、県立おのだサッカー交流公園内において、新たにクラブハウス機能を持った交流施設の建設を行う案件の補正です。それでは、補正予算の1ページをお開きください。今回の補正は、歳入歳出それぞれ1億4,191万8,000円を増額し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ287億7,623万6,000円とするものです。次に2ページ、第1表歳入歳出予算補正の歳入として、18款繰入金、20款諸収入において、補正額を計上しています。また、歳出として、2款総務費において補正額を計上しています。以上、総括的な内容について説明しました。続いて、3ページからの事項別明細書において、まず、歳入の一般財源について、財政課から説明し、その他の歳入については、歳出の説明に併せて、担当課が説明します。5ページ、6ページ、歳入の18款1項1目1節の財政調整基金繰入金1億2,691万8,000円の増額については、今回の補正に係る財源調整で計上しています。これにより、財政調整基金の予算上の残高は34億8,366万6,000円となります。その他の歳入については、歳出の説明に併せ、担当課から説明します。

川崎スポーツ振興課長 それでは文化・スポーツ政策室から補正予算について説明します。7ページ、8ページ、今回の補正は、レノファ山口の練習拠点となるクラブハウス機能を備えた交流施設を建設するためのものです。この施設を整備することにより、地方創生の観点から、交流人口の増加、人口定住促進、市民の一体感の醸成などプロスポーツを活用したまちづくりを推進するものです。施設については、資料により説明します。資料1ページ、レノファ山口市練習拠点に伴う整備について、本市はレノファ山口市のホームタウンであり、文化・スポーツによるまちづくりをさらに推進するため、本市がレノファ山口市の練習拠点地となるべく、クラブハウスの整備を行うものです。もってレノファ山口市の練習活動拠点となり、スポーツ振興や市民の一体感の醸成、交流人口の増加、地域活性化、本市のPR、定住促進等を図るものです。まず1番として、レノファ山口市の常時練習場については、県立おのだサッカー交流公園内の天然芝コートを予定しています。それから2として、レノファ山口市のクラブハウスについてですが、レノファ山口市のクラブハウスについては、

県の交流施設棟の隣接地に建設する予定です。構造は、軽量鉄骨、平屋建て、面積は375.957㎡です。2ページは、建設予定地ですが、既存交流施設棟の隣です。3ページは今の既存交流施設と今回建設する交流施設の位置関係を示した拡大図です。4ページは今回建設する交流施設をさらに拡大したものです。部屋数は、会議室、救護室など全6部屋です。施設概要については以上です。続いて、予算について説明します。7、8ページ、歳出2款1項28目スポーツ施設費の内訳は、11節需用費40万円、消耗品費、光熱水費です。12節役務費25万5,000円は建築確認申請手数料、建物共済保険料などです。13節委託料16万8,000円は、機械警備、設備保守、清掃の委託料です。14節使用料及び賃借料9万円は、建設時又は建設後の県有地の借上料です。15節工事請負費1億3,968万8,000円は、交流施設の建設費です。18節備品購入費116万7,000円は、イス、机、ホワイトボードなどです。19節負担金、補助及び交付金15万円は、下水道受益者負担金、水道加入者負担金です。合計が1億4,191万8,000円の増額で、補正後の額を2億510万4,000円とするものです。また歳入については、6ページ、日本サッカー協会の助成金であるJFAサッカー施設整備助成金1,500万円を予定しています。

伊藤實委員長 それでは執行部の説明が終わりましたので、委員からの質疑を受けます。

下瀬俊夫委員 名称がスポーツ交流施設となっていますが、4ページの平面図でどの部分が一般開放になるんですか。

川崎スポーツ振興課長 今予定している一般開放の部分は会議室1、救護室になります。レノファが予定している専用部分については、会議室2、多目的室、更衣室、シャワー室になります。この図面の上の女子トイレ、男子トイレと通路は一般開放部分となります。

中村博行委員 JFAサッカー施設整備助成金ですけども、これはどういう性格なもので、上限はあるんですか。この1,500万円の根拠をお願いします。

川崎スポーツ振興課長 このJFAサッカー施設整備助成事業は、地区サッカー施設ということで、各地区でそれぞれ整備する内容によって助成金が定められています。クラブハウスの新設、対象事業経費が3,000万円

のうち上限が1,500万円となっています。

下瀬俊夫委員 基本的な問題ですが、今日も市長が県知事の記者会見に「はっとした」という話がありました。これは県の施設ですよ。それをなぜ「はっとした」のか意味が分からないんですが、敷地も基本的には県有地ですよ。県の施設の中に市の施設を作るということで、県はこの問題にどう関わってきたんですか。

姫井文化・スポーツ振興部長 下瀬委員が言われるように、県立おのだサッカー交流公園自体は県のものです。そして土地も県有地ということで、その中でまず練習会場がどこになるかということで、我々としてはおのだサッカー交流公園には天然芝がありますので、ここをレノファの拠点としていただきたいと。ちなみに現在も週に2回程度はここでレノファが練習をしています。それと建物についても、ここは県有地ですけど、既存と書いてあるところが県の交流施設、いわゆる管理棟ですが、現在そこにあります。その横に我々としては建てさせてほしいと。というのがJリーグの基準として練習場の隣接地にクラブハウスがあることが基準となっていますので、我々としても練習場とクラブハウスは隣接した所がいいということで、選定場所として県にお願いしながら、県の了解を得て今回クラブハウス、交流棟の建設に至ったものです。

下瀬俊夫委員 今回、県知事が記者会見をやっていますよね。県知事の記者会見の前に市議員が知らなきゃいけないということで、全協開いて、それで説明したわけでしょ。県主導で話がずっと進んでいるわけでしょ。これでいけば単独市費みたいな感じ、補助金はもらったにしても、1億2,000万円、とりあえず財調を取り崩してやるわけですから、何でこれに県が主導で話を持ってこないといけないのかがよく分からない、市の施設なのに。例えば県が半分でもやりますよということだったら分かるんですよ。何でそんなに卑屈にならないといけないの、市が。

姫井文化・スポーツ振興部長 全協でお知らせしたのは、県の発表前というか、同時ぐらいです。それと既存の管理棟がありますが、3ページを見ていただけたらと思うんですけど、上にあるのが県の管理棟です。下の部分が今回市が建てたいと思う建物です。それで、今375㎡ぐらいを予定していますが、本来であれば、他を見ると大体500㎡から700㎡、もっと大きな面積と、それで我々としてもできるだけ今朝のこともありますし、この上のほうの中の右側にセミナールーム1、2というのがあ

ります。通称会議室になりますけど、この部分と一番左側シャワー室、更衣室の部分については、レノファが使うクラブハウスということで併せて使用させてほしいということで、本来であれば最低500㎡はいるんですけど、建物面積が今回375㎡ということで、約150㎡少なく済むということで県の協力もいただいているというものです。

伊藤實委員長 今回の説明はすごく分かりにくいと思うけど、もともとは500から700いるわけでしょ。そこに既存の県の施設も使わせていただくというのが、県は現金は出さないけど、そういう利用は認めたということよね。それで結果的には三百何十㎡ぐらいで、市でするっていうことなわけよね。だから予算上、県の助成などはないけど、施設を借りるということで応分の協力ももらったということでしょ。そこを言ってくださいよ、ちゃんと。

姫井文化・スポーツ振興部長 そのとおりです。私の説明がまずくて申し訳ありません。今の建築費よりも5割増し、7割増し、本来なら要るということですよ。

矢田松夫委員 基本的なことをお伺いしますが、急きょこの議案を追加議案で出されたんですが、この一番大きな理由は何ですか。

姫井文化・スポーツ振興部長 一番大きな理由は、建設場所、それから練習場についてどこにするかということで、特に県の協力を得てここに決まったと。いわゆる県立おのだサッカー交流公園を練習拠点とするということで、県との協議に一番時間が掛かったというものです。

矢田松夫委員 そこが一番の原因だと私は思ってないんですが、3月の代表質問の中でも市長は大体3月いっぱいには目途が立つだろうと。しかし6月もあるよということも言われたんですが、基本的に3月いっぱいという回答をされているんですが、それと今回の6月の急きょというのは、間がだいぶ開いて整合性がないんですが。

川崎スポーツ振興課 今年に入ってですが、県立おのだサッカー交流公園でレノファの環境整備を整えることがいいんじゃないかということで。というのが今現在もJ2に上がったときに1年前ですが、J2のライセンスをレノファがJリーグに申請しています。その練習会場も県立おのだサッカー交流公園、それから山口の練習場が1箇所、2箇所ほど今、J2

のライセンスの申請時に明記されています。私どもとしても、一番自然なのが県立おのだサッカー交流公園を活用して練習環境を整えることだと思っていまして、県のほうにもお話を進めていったんですが、県のほうは練習環境の整備については各ホームタウンで整備をしてくださいと。県についてはスタジアムの整備をしましょうというようなお話が今年初めにありました。そういうことがあったので、ほかの市有地なり、県立を除いた候補地の中で検討していましたが、レノファの強い要望といえますか、今の県立おのだサッカー交流公園を現に練習会場としているということもあつたし、県有施設ということもあつて、レノファの後押しもあつたのかなと思ひながら、県と協議する中で、県立おのだサッカー交流公園を県が承諾してくださつたということで、これにより、先ほどの建築費の軽減にもなりますし、県も芝生の練習場、それから既存の交流施設の一部をJリーグの申請のために提供というか、協力をしていただいたということから、県立おのだサッカー交流公園をこの時期に上程させていただいたということなんです。

矢田松夫委員　それが本当に大きな理由ですか。ではなくて、市長はこう答えているんですが、結局、市民の本当の熱意、それを見ながら対応していくと言われたんですが、それがやっぱり出ないと、市民にどういう熱意があり、市民が本当に今回のクラブハウスがいるのかいないのかという、そこを見極めずに、先ほどから意見もありますように、県の主導でこの建物を建てるというのは、ものすごく市民とのかい離があるんじゃないかと。こういうのが建つても結局、市民が希望しないものが建つて、子供のおもちゃと一緒にですよ。子供が要らないのにおもちゃを与えて、全然子供が遊ばないのと一緒にですよ。そういうことでいいのか、今回のこの追加議案が。それも物すごく高価な建物です。基本的なところを質問したんですが、その辺はどうなんですか。やっぱり熱意がどうなのか、熱意を見定めて、今回6月に間に合うように作ったのか。まだまだ全然熱意がないのに建てるのかどうなのか。そういうところですよ。

姫井文化・スポーツ振興部長　私はこの4月からですけど、3月議会の答弁の中で、市長の熱意と議場で言われたと思うんですけど、その辺りについては3月に1万6,000人の方々の署名が出ています。その中でもクラブハウスの建設と練習場の確保、それと前からパートナーズクラブも立ち上げておられますし、議会の政策提言もあります。そのほか今までもレノファののぼりを立てられたり、市としては市役所の前や厚狭の複合施設の掲示板などを設置しながら、盛り上げてきたところです。私が

来た4月、担当した当時は、まだほかの所も実はありました。ただそこはやはり費用的にもたくさん掛かるとか、あるいは練習場とクラブハウスの位置が離れているとか、なかなかそういうことで、練習場とクラブハウスは、隣接地ということとJリーグの基準となっていますので、我々が県のほうに、どうか県立サッカー場を練習拠点にさせてくださいというお願いをしてきました。その交渉結果の中で、県からいいですよという回答をいただいたところです。

伊藤實委員長　そういうところも含めて、これまでの経緯、部長は4月に変わったばかりなので、あれかも分からないんだけど、実際議会としても政策提言の中で、レノファの支援も全議員一致の中でしているわけですよ。矢田委員の質疑の中でもJ1ライセンスの申請が今月末なんですよ。そこに練習場の拠点というところには、この施設を造るかどうかということが決まるわけじゃないですか。だからやっぱりそういう経緯も時系列的にちゃんと丁寧に説明する中でしないとね。要は目的じゃないわけですよ。選手の定住も含めて、交流人口を増やして、どんどん地域の活性化をしようという手段としてするわけじゃないですか。やはりそういう部分も議案説明のときにもっと丁寧に説明してもらわないと。金額についても事前の話より大きいとか、市民にどうなのかという、その辺の疑問を持たれるのは当然だと思うので、やはり執行部としては、その辺をもっと丁寧に。川崎課長は経緯を知っているわけだから、その辺についてもっと説明をしてもらえますか。

川崎スポーツ振興課長　説明が不足していました。この議会で上程したというのが、いろいろ関係機関との調整、Jリーグとの調整、レノファとの調整、山口県との調整があり、今回上程させていただきましたが、先ほど委員長が言われた、この期限については、J1ライセンスの申請期日が6月末となっています。これを逃してしまうと、このシーズンは、J1のライセンスが交付されないという、一つの条件となっていますので、今回上程させていただきました。予定としては、この施設の完成がいつかという、来シーズン、レノファが始動するとき、具体的には1月末までに、この施設を完成していきたいと思っています。

河野朋子委員　レノファを応援していこうという、この山陽小野田市の姿勢というところでは理解できますし、議会としてもいろいろ協力していこうということでやっているわけですが、今回の件について、6月末がライセンスの期限なのでということを考えると、もっと早く議会に対し

て、議案も3月に出すべきじゃないかと思えますし、6月議会でも、この追加上程というのは納得いかないんですよ。これだけ期限が迫っているから、もう間に合わないんですよというような説明にしか聞こえません。これだけ大事な問題ですし、市民にとっても、こういった公共施設をまた増やすわけですよ。今後この公共施設は、維持管理をしていかなくちゃいけない。こういうことをもう期限がないから出して、じゃあお願いしますという、この姿勢は納得いかないというか、中身についてはまだいろいろ聞かなくちゃいけないことがあるんですけども、交渉に時間が掛かったと言われますけれども、早めに出してじっくり慎重に審査してほしいという姿勢を、余りにもぎりぎり、もう有無を言わせずというような提案の仕方はおかしいと思えますけど、その辺はどのように考えていますか。

姫井文化・スポーツ振興部長 3月の議会の時点では、6月のJリーグ申請に間に合うようにという市長の答弁があったと思います。その後私が4月に来たということですけど、それ以降一生懸命6月末の申請に間に合うように、本来であれば6月の議会の最初に議案を上げることが当然だと思います。それに向けて全力でやってきたんですけど、私の力不足により県との調整、実際にはレノファの調整、そしてJリーグ、建物の内容がクラブハウスとして最小限の内容です。その辺はクリアしないと6月末に出しても、通らないということもありますので。この度の途中上程になったことは、本当申し訳ありません。

下瀬俊夫委員 さっきの説明ではだめですよ。期限がないから、早くやってくれなんて、そんな受け止め方をされるような答弁は駄目ですよ。それはね、議会を無視しています。通さなかったら議会が悪いんですか。議会の責任にするようなまねはやめてください。それも途中上程。27日の5日前に審議して、それで時間がないから、早くやってくれって、そんな馬鹿な話があるかいね。

姫井文化・スポーツ振興部長 改めて申し訳ございません。もっと早く出さなきゃいけないことは、十分承知しています。申し訳なく思っています。

伊藤實委員長 今言われるように、本当に時間がないからじゃないわけでしょ。ここには県の折衝なんかいろいろあったわけよね。そこで結果的にこうなったわけで、そういうところが言い方でも全然違う。時間がないので、

通してくれという話じゃないと思うので、財源でも、少しでも活用しながらしようという中で、県立サッカー場の今の施設を有効に活用しながら、一般財源の負担も軽減しようということで、山口県とも交渉しているわけだから、ちゃんと言わないと。

姫井文化・スポーツ振興部長 もう1点大きな要因として、先週末、6月17日の金曜日に県のほうで正式に、「県はスタジアムの改修をしましょう。そして練習拠点は、県立サッカー場の中で山陽小野田市が建物建設について承諾します」という正式な発表がありましたので、市としては、それを受けてということで、時間が掛かったというのも一つの大きな要因ですが、ただ6月末申請があるからということで、そこについては申し訳なく思います。

笹木慶之委員 具体的な内容に触れさせてもらいます。まずこの財源内訳ですが、財源内訳は一般財源として、基金を使っていますよね。起債、借入れはできないの。

篠原財政課長 財源は、施設の目的、レノファが優先的に使うスペースもあるということですので、起債も借りられないこともないんですけど、財政調整基金からの取崩しでの対応としています。

笹木慶之委員 ということは公共性がないということですか。公共性がないということで借りられないということですか。

篠原財政課長 借りられないことはないんですけども。

笹木慶之委員 では、なぜ借りないんですか。

川地総合政策部長 担当課から説明があったと思いますけど、この三百数十平米のうち、約6割がレノファの占有となります。会議室とトイレと救護室が一般開放になりますけど、その多くは占有されますので、複雑的な施設となります。厳密に言えば、起債の充当は可能だと思いますけど、内容から言って、これは難しいんじゃないだろうかというのが1点。もう1点は、ここには出していませんけども、やはりレノファの占有ということがありますので、今後レノファを通じて幾らかの負担を求めるような協議をしています。ただその内容については、まだ協議の詳細が詰まっていない関係上、今回の建設に関しては、財政調整基金の繰入れで

行いますけども、次年度以降負担については、レノファと協議中です。

笹木慶之委員 最後の部分が実は聞きたかったわけです。多分そういう思惑があるんじゃないかなという気がしました。その次に設置条例はどのようにされるんですか。

川崎スポーツ振興課長 この利用形態については、レノファの専用部分と開放する部分があり、普通財産的な位置付けをしています。したがって、設置条例は設けないという考え方です。

笹木慶之委員 そうしますと一般開放の会議室がありますが、無料ですか。

川崎スポーツ振興課長 無料で考えています。

笹木慶之委員 県のセミナールームは、レノファの占有ですか。

川崎スポーツ振興課長 これはレノファの優先的なスペースとなります。専用ではありません。

笹木慶之委員 そうするとこれは使用料が要るんですね。

川崎スポーツ振興課長 はい。

笹木慶之委員 クラブハウスの維持費は、誰がみるんでしょうか。

川崎スポーツ振興課長 維持費について、今回の新築部分は山陽小野田市と考えています。

河野朋子委員長 今のことに関連しているんですけど、私は公共施設という捉え方をしたので、使用料は当然取られると思っていたんですけど、今の説明でいくと市民も無料で、レノファとは今後何らかの交渉ということですけど、当面一切使用料が発生しないということですね。

川崎スポーツ振興課長 一般利用者が使用されるときには、使用料は掛かりません。無料です。レノファについては、専用での使用もありますので、その辺については、幾らかの負担をいただきたいと思って、今協議をしているところです。

河野朋子委員長 建設費とか、コストについては分かったんですけど、先ほど言われたランニングコスト、これについて試算はされているんでしょうか。

川崎スポーツ振興課長 管理費は、年間300万円ぐらいを予定しています。

河野朋子委員長 新たな施設がここにできて、またそれに維持管理費が掛かってくるとなると、ある程度の受益者負担というか、使用料、その辺どうでしょうか。これは決定でしょうか。

川崎スポーツ振興課長 普通財産ということで使用料は取らないで、レノファからは幾らかいただくということで協議しています。これからも、今の財産の位置付けであれば、取らないという方向ですが、それについても、また検討したいと思えますし、レノファの専用部分も、レノファ、それからJリーグ等とも協議しながら、なるべく一般開放が広がるような形でも検討をしたいと思っています。今は、現時点での考え方をお話ししています。

岡山明委員 この図面を見て、トレーニング室がない。多目的室がトレーニングルーム兼用という形になりますか。

川崎スポーツ振興課長 そのとおりです。多目的室がトレーニングジムになります。

岡山明委員 その予算はどこに入っていますか。結構お金が掛かると思うんですが、どこに入っていますか。

川崎スポーツ振興課長 ジムの器具、機械については、レノファとの協議においては、レノファのほうでそろえるということで、調整しています。

岡山明委員 レノファのほうから出すということになりますと、施設はあくまでも、山陽小野田市スポーツ交流施設なので、多目的室のトレーニングルームを有料で市民が使えるのか。せっかくこういう新しい施設ができた状況の中で、新しいレノファの器具、市民も同じように使いたいと、そういう分で、有料で使用させていただく可能性があるかどうか聞きたいと思っています。

川崎スポーツ振興課長 今、市においてはジムの器具、機械ですが、それは準備する予定にしていません。レノファがここに持ってこられた場合にはその機械を一般開放するという事は今のところ考えていません。

岡山明委員 それでお金を出すから市民にも使ってくださいと、そういう有料の使用の考え方は市からレノファにお願いするような形になるので、それは今後考えられないと。あくまでもレノファのトレーニング器具なので一般の人には使わさないと。施設は山陽小野田市がお金を払うと。その辺は今後の課題としてどうなのかと思うんですけど。

川崎スポーツ振興課長 レノファが機械をここに持ってくる予定となっておりますので、その貸出しについては考えていませんし、スペース的にもかなりの機械とも聞いていますので、市がその機械を揃えて一般開放するという事については考えていません。

伊藤實委員長 ちょっと待って、市が揃えるんじゃないでしょ。レノファでしょ。

川崎スポーツ振興課長 ちょっと言い方がまずかったかも分かりませんが。

伊藤實委員長 全然違うよ、話が。レノファが設備は出すということでしょ。

川崎スポーツ振興課長 そうです。だから、岡山議員が言われた、多目的室にレノファの器具を揃えたあとにスペースが余れば、市がそこに器具を揃えて一般開放をするということは考えていません。

伊藤實委員長 レノファが揃えたものを有料で使わせてもらえないかという話をされたんじゃないの。

川崎スポーツ振興課長 今後レノファと協議をさせていただきます。

笹木慶之委員 普通財産ということですが、普通財産で三つの部屋を専用する。当然使用の契約が出てくると思うんですけど、どうですか。

川崎スポーツ振興課長 この普通財産については、レノファの専用部分、それから利用形態に応じてレノファと協定もしくは契約を締結していきたい

と考えています。

笹木慶之委員 そうするとそのほかの会議室はどのような形、誰でもいつでもどのようにでも使えるんですか。

川崎スポーツ振興課長 資料の4ページ、まず、レノファの専用部分が多目的室、会議室2、更衣室、シャワー室、更衣室の左隣に示してありますトイレも含めてですけども、そこがレノファの専用部分となります。それ以外のところ、会議室1、救護室、女子トイレ、男子トイレ、玄関からの通路は一般開放と考えています。一般部分については、レノファが使用されるときは開放しません。レノファが使用されないときに開放するということとなりますので、レノファが週に4日、5日、午前、午後と練習されるときは一般の方はここに入ることができないように考えています。

笹木慶之委員 問題は、そこをきちんと言わないと、その部分がファジーになるから、会議室と救護室は全部オープンかと、こういうことになるわけですよ。そうなるはずがない。早く言えば、これは全部がレノファでしょ。全部がレノファと言い切らないとおかしくなる。空いたときにたまたま使えるということですよ。それで、仮称が山陽小野田市スポーツ交流施設となっているんですが、これは間違えませんか。それから先は言いませんがね。やっぱり目的と看板はきちんと合っていないとおかしいと思いますけど。決して私はこのことに反対して言っているわけではないわけですが、今まで進んできた流れの中でやらないといけません、やっぱり説明をきちんとしながら理解を求めるという方法を取らないと、曖昧なままの話では後でまたもめますよ。それからさっき言ったレノファとのこれからの協議の問題。これはしっかりあるべき姿に持っていくということを前提に財源充実にしてあるわけですから、その流れはやっぱりきちんとしてほしいということをおきます。

下瀬俊夫委員 いわゆるレノファが使うときにはこのクラブハウスは基本的に一般開放しませんと明確にさせていただきたいのが一つ。そうすると、例えば既存のセミナールームはレノファ優先になるという話ですよ。そうするとレノファが使うときはセミナールームもこのクラブハウスも基本的に一般の人は利用できないということになりますよね。

川崎スポーツ振興課長 今回市が建設する所については先ほど説明したとおり

ですが、基本の交流施設についてセミナールーム1、2がありますけども、セミナールームの1、図面では右のほう、東側になるんですが、メディア取材スペースという名称で、メディアが取材する所。セミナールーム2はメディアが作業するスペースになりますので、メディアがレノファの練習時に毎回取材とか作業されるとは思っていませんので、レノファが練習するからここが使えないということではないと思います。それと上の更衣室については、既存の更衣室はビジターチームの更衣室ということで、レノファが練習試合をする相手チームの更衣室になりますので、これも頻繁にはないと思います。週に1回、月に2回あるかないかぐらいかなと思っておりますので、それ以外は利用が可能となります。

下瀬俊夫委員 私が言っているのは、レノファが使うときにはこのクラブハウスは基本的に一般開放しませんという、この確認ですよ。もう一つは、このセミナールームは今後レノファ優先と言われたから、レノファが使えるときには一般の人はここは基本的に使えなくなるのかという話をしたんですよ。そういうことになるんじゃないですか。

川崎スポーツ振興課長 レノファが使われるときには一般の方は利用できません。既存の所については、レノファの取材であるとか練習試合なんかも決まりますので、予約によってその辺が確認できようかと思っております。その予約によって予約が入らないときは開放部分になるかと思っております。

下瀬俊夫委員 結局、一般の人は情報が分からない場合には利用のしようがなくなるのよね、レノファ優先ということになってしまうと。だから基本的には、これは使えなくなるんですよ。いつもかつもレノファの情報を仕入れておかないと使えるか使えないのか、さっぱり分からなくなるわけでしょ。そこら辺が気になるんですけどね。

姫井文化・スポーツ振興部長 まず3ページの上のほうの既設、県の建物です。セミナールーム1、2と左側のシャワー室、更衣室についても例えばレノファが練習試合をするとか、よっぽどのときしかレノファが使うことはありません。一般利用は平日の夜や土日が多い。ですので、今までどおり一般の方には御迷惑はほとんどないと思っております。天然芝あるいは人工芝、平日の日中においては今までもあまり練習がありませんので、逆に天然芝をもっと利用してもらえるようになると。それと新しい建物についてはレノファの練習は大体平日の日中で、土日のどちらかは試合がありますので、平日の日中、レノファがおられるときには一般開放は

しない。

伊藤實委員長 もうちょっとちゃんと説明を。分かるんだけど、すごく分かりにくい。今度新しく造る部分は、基本的にはレノファが使用中は一切使えないということでしょう。それで下瀬委員が言われるのは、既存の部分、そこは基本的に練習試合とかそういう場合に使うということと、あとメディアって言うけど、こっちの新しい会議室とかも空くわけでしょう。そしたらそこにしても可能なわけでしょう。ということは現在の利用者側に支障がないように極力するという事じゃないの。そこをはっきり言わないから、曖昧なことを言うから皆がどうなのかってなるわけよ。

姫井文化・スポーツ振興部長 そのとおりです。今までどおり市民の方については練習場も既存の建物も支障がないように運営をしていきます。

伊藤實委員長 ちょっとここで2時半まで休憩を入れます。

午後2時20分休憩

午後2時30分再開

伊藤實委員長 それでは休憩前に引き続き、委員会を再開します。

松尾数則委員 レノファを使ってまちづくりということで、J1仕様のクラブハウスを造るということにもろ手を挙げて賛成というわけではないんです。と言いますのは、スポーツはもちろんサッカーだけではなく、野球もある、ソフトボールもある、ここには剣道の達人もいらっしゃいます。それを伊藤議員の一般質問の中でもありましたが、サッカーを通じてほかのスポーツを何とかすると言いますか、うまく働かせるというシステム、仕組みをお聞きしたいと思います。

川崎スポーツ振興課長 レノファはサッカーチームではありますが、プロスポーツを活用したまちづくりということで、例えば今回レノファの選手にいろいろ保育園とか市内の施設に行ってもらったりということで知名度を上げるようなこともやっていますし、この前、ほかの競技になりますが、市の野球連盟の野球の大きな大会があり、市の野球場にレノファののぼりを付けようというようなこともほかの競技団体でもやっていただいているところです。レノファを活用した、例えばこの前の議会の中で

100歳体操、そういうお話もあつたり、SOS元気体操とかもあつたりします。その辺もレノファの選手を活用して市民の方に普及をしていって、健康になっていただきたいという取組もやっつていこうと思つています。

矢田松夫委員 先ほど、この追加議案をなぜ今の時期かと聞きましたけれど、各関係方面との調整と言われたんですけどね。結局のところ、それぞれ宇部も下関も山口もホームタウンとしてレノファを応援しようという気持ちがあるんですが、しかし今回の件は山陽小野田市側から負担というより財源を建設費含めて出すと。いわゆる山陽小野田市側からの申し出を受けたと、こういう新聞記事があるんですが、その辺のところの真相はどうですか。

川崎スポーツ振興課長 今、お話をされたとおりですが、まず今年の初めに市長と我々、市のほうから県のほうに県立おのだサッカー交流公園、県有施設ですが、ここでレノファの環境整備ができないかということで申入れをしました。その内容については、市は応分の負担をするので、クラブハウスを建設させてもらつてもいいけど、どうにか協力いただけないだろうかという申入れをまずしましたが、練習環境の整備は各ホームタウン自治体のことでもあるし、一企業に対して協力というようなことはできないという回答がありました。その後、県有施設については断念をしたわけで、そしたら市内のほかの施設がないかということで、例えば野球場と市民プールの駐車場、日産化学の法面の所に市独自でクラブハウスを建てようかという計画が上がってきました。併せて、市のサッカー場についても芝生化して天然芝一面、それから隣接したクラブハウスということで計画を一部変更しながら、そこで練習環境が整わないかということで検討してきました。そのクラブハウスについても元々暫定的なプレハブのようなものでJ1申請できないかということで進めていたんです。それについても最低の施設ということで、J1のライセンス基準には各部屋こういうものを揃えなさいという基準はありますが、各部屋が何㎡ないといけないということは明記されていなかった。それで最低の部屋を揃えてJリーグ、レノファと協議をしてきましたが、その部屋ではちょっと狭いという話になり、それを整備するためには500㎡以上ある施設、これは暫定的ということはJリーグとお話をする中ではなかなか認めてもらえないもので500㎡以上のものを例えば建てようとすると、建設費がすごく膨らむ、もう2億、3億となつてしまうということから、改めて県の施設を利用させていただいて、市がまた応分の

負担をする。それと県の土地を借りるもので、県も今の機能強化といいますか、何でもかんでも建てたらいいというものじゃなくて、今の利用者にとって利便性が上がるということでの交流公園の機能強化を図る施設であればよかろうというようなことがあり、いろいろ細部に渡って詰めたところ、先週の金曜日に県からようやくこれだったらよかろうと、Jリーグのほうもこの部屋、間取りだったらよかろうということで協議が整った次第ですので、6月末申請だから必ず通してくれという話ではなくて、本当は当初予算や6月の当初で上程すべきものがぎりぎりになってしまったのですが、過去のいろいろ協議、それから調整等に時間を要して今回途中上程をさせていただいたという次第です。

矢田松夫委員 今回の回答をまとめて言うと、これぐらいの敷地とかこれぐらいの講堂とか、あるいはその応分の負担、この調整で手間取ったとこれが大きな問題であると、原因であるとそう理解していいですか。一番大きな理由ですね。

川崎スポーツ振興課長 はい、そのとおりです。

矢田松夫委員 とすると、なぜ山陽小野田市が手を挙げたのか。そこにくるんですね。ホームタウンで支援するところは、まだほかの市もあったわけですね。ほかの市がだめで、山陽小野田市が良かったというのは、結局お金を幾ら出すかということに尽きるんじゃないですか。

川崎スポーツ振興課長 J2のライセンスのときに、既に県立サッカー交流公園が練習会場になっていたということもありますし、昨年の6月ぐらいですか、それから10月、レノファの河村社長からも小野田で練習会場を一本化したいということを表示されたということもあり、それから本市がレノファのホームタウンになったということは、県立サッカー交流公園を中心に練習環境の整備に努めていくということもあって、本市がレノファ等と調整をした。ほかの市の動きについてはその辺がつかめていないところはあります。

矢田松夫委員 クラブハウス設置については当市が本命、対抗馬はいないんでしょう。本命はうちですよ。対抗とか大穴とかないんでしょう。であれば早くから、3月の段階で大体分かっていたならば、その辺から計画をして、6月の当初に出してくるというのが大体のストーリーというかね。突然これが出てきたから何なのか。市民説明だって私も全然できないし、

意見を聞くというのも僕らもできないんですよ。いきなり出て、どうですかとなっているでしょ。一般市民は全部マスコミなんですよ、金額以外は。それが本来の市民本位なのかというところが、今一番議会で問題にしているんですよ。非常にまずいやり方ですよ。

姫井文化・スポーツ振興部長 この時期に上程となったことはお詫びします。それと3月議会においては、市長は今からJ1申請を進めていくというような回答であったと記憶しています。その後、私が4月以降スポーツ担当部署になったときには、クラブハウスは進めていこうという話だったんですけど、場所については、ほかの所、例えば山陽小野田市の市有地の所であるとかいうこともありましたが、ただ、せっかく県立のサッカーの天然芝があるということですので、芝生化もしなくいいじゃないですかと、そういう費用の削減と県立サッカー場の横に立てるのが一番、練習場がここであれば、その隣接地にクラブハウスという、これ基準になっていますので、そしたら我々としては県立のサッカー場、そして、その隣にクラブハウスを立てるのが一番いいんじゃないかということで、ずっと調整をしてきたところ、ようやく先週の金曜日に正式に県から了解を得られたということで、今回途中上程になっています。ただ、もっと早く県と調整がうまくいけば6月議会の当初に出せたかと思えますけど、その点力不足ということで申し訳なく思っています。

下瀬俊夫委員 結局クラブハウスを造るかどうかという問題は、レノファとの合意事項がなければ、なかなか難しいという話ですよ。例えば下関がクラブハウスを造るから来ないかと言っても首を縦に振らなかったわけですよ。宇部はどうかというと、宇部は端から造る気はなかったと聞いています。それはなぜかというと、単独で出すということはしないんですよ、今の宇部は。基本的にどこからか金を引っ張ってきて、いろんな施設を造るというのが今の宇部のやり方ですよ。そういう点では山陽小野田市しかなかったというのは一つあるわけですよ。ただ、問題は、私が聞いている話として若干違うのは、県との調整に時間が掛かった。確かに17日に県知事が記者会見をやったというのはあるんですが、さっき言われたレノファの負担の問題は、きちんとした話として詰まっていなかったんじゃないですか。そこら辺がある意味では財政問題についてどうするかという点がなかなか煮詰まらなかった面があったのではないかと思っているんですが、それはどうですか。

姫井文化・スポーツ振興部長 その点は確かにあります。レノファに幾ら負

担をしていただくかというのも、今調整中ではあります。ずっとこの件についても、レノファと直接話をしています。はっきりした数字をいただくように調整しているところです。

下瀬俊夫委員 それなりの方向は、かなり具体的な交渉段階、交渉事ですから、こちらからも当然提起をされているんだろうと思うんですよ。その中身ぐらい少しは言えないんですか。例えば半分持ってくれとか、今後何年間に出してくれとか、こういう話はないんですか。

姫井文化・スポーツ振興部長 建物の金額についても、維持費についても、下瀬議員が言われたような部分での交渉はしています。大体これだけ掛かるからというような交渉もしています。最終的には、まだ合意まで至っていませんけど、とにかくどの程度の負担になるか分かりませんが、負担をいただくように調整中です。

下瀬俊夫委員 こちらが事業費を出すという話はいいんですが、どの程度の負担割合でみてくれという話はあったんじゃないですか。例えば半々とか折半でいこうとかという話はあったんじゃないですか。それは財政のほうが話をしやすいのか。

姫井文化・スポーツ振興部長 どこまで出していただけるかという調整はしています。今後の維持費もありますので、応分の負担はということで調整しているところです。金額については、まだ決まっておきませんので、ここでは控えさせていただきます。

下瀬俊夫委員 1億4,000万、若干補助金が出るとしても、1億2,500万ですよ。これだけの金を単独でみていいのかどうなのかということが基本的な議論になるわけですよ。そのときに行政としてはレノファに対してこういうふうに頼んでいるんだと、そんな話が全く出てこないじゃないですか。何でこちらから聞かないと出てこないんですか。おかしいでしょ。

姫井文化・スポーツ振興部長 はっきり負担額が決まっていれば今回の歳入に入れるべきと思っています。大体私どもが思っているのは維持費。維持費が年間二、三百万掛かりますけれども、そのぐらいの応分の負担はできないかということで調整をしているところです。

伊藤實委員長 下瀬委員が言われるのは委員からの質問の前にそういう部分については、今金額は決まっていらないんだけど、こういう調整をしていますということと言うのと、こちらが聞いて言うのとは違うという意味合いですよ。そういう説明をちゃんとしないから不信感が出る。

河野朋子委員 余裕のある所でしたら、そういった一企業のプロに対してということがあっても悪くないかも知れませんが、いろいろ市民もちろん議会も市役所も皆いろんなことでかなり節約して、そしていろんな希望が、例えば給食センターにしてもたくさんの署名が集まって親子方式にしてほしいという声があったんですけど、財政的なことを理由にして市民の声をそういうふうにして、お願いをして、我慢をしてもらっている中で、今回言われるような、そういった金額を、一つのチームに市民の税金を使って、これが全て市民の税金でそういうふうに出すのか、あるいはきちんとそれなりの負担をもらうという姿勢を示して説明するのとは、私たちも市民に理解をもらうためにも、先ほどの議案の提出時期とかということも関係するんですけども、そういう努力をするための時間もないし、内容についても全額これを大盤振る舞いで市がやりますよと言って、市民は納得するのでしょうか。決して納得しないと思います。レノファを応援したいという気持ちがあっても、やはりその辺りの市の姿勢、こういった交渉を粘り強くしていつて分かってもらうようにしますからと言って提案するのと、もう時間がないのでお願いしますと言われるのと、全然中身が違うんですよね、同じ議案にしても。だからその辺りの財源についての今からの姿勢とか方向性についてもう少し、数字で挙げられないにしても、これでは納得がいきません。採決にも私は至らない状態なのでお願いします。

姫井文化・スポーツ振興部長 結局、クラブハウスを建てることによって、今後の経済効果といいますか、そちらの分も見なければいけないと思っています。一つの企業誘致とも捉えています。やはりレノファが月曜から金曜までここで練習されるということになりますと、当然住んでいただけると。その辺の交渉も実はしています。できるだけ本市に住んでいただきたいと。選手とかスタッフにとにかく一人でも多く住んでいただいて、消費もありますし、手に取って見えてこないですけど、Ｊリーグの選手が住む町とか知名度とかマスコミの取り上げ方、それからやっぱり子供たちにＪリーグが一緒に市内に居るとか、そういうような夢と希望もあると思います。今後、特に考えなければいけないのは、とにかくレノファを活用した、レノファと連携した展開ということを十分まちづく

りに生かしながら進めていくということで、まずレノファの練習拠点を本市でして、県はスタジアムの改修と、住み分けをしていきたいと思えます。

下瀬俊夫委員 そんなこと聞いていないんですよ、今の話は。そんなことはある意味ではどうでもいいんです。説明の仕方として、単独の市費で基本的にやりますよということと努力してレノファにもこれだけ負担してもらいますよと、だから認めてくださいということでは、受け止め方が全然違うじゃないかという質問なんです。それを変なことをいっぱい言わなくてもいい。

川崎スポーツ振興課長 レノファと今交渉している内容は、この建設費から先ほどの1,500万のJFAの助成金を引いたものについて、普通財産であれば貸付基準なんかもあります。この建物については軽量鉄骨で25年の耐用年数となっており、10年から20年ぐらいの間に建設費の3割、4割ぐらいを分割してレノファからいただければいいのかなというように話をしています。ただ、これは今から詰めていく話なので、実際に幾らですよとお話できないんですけど、それぐらいを目安にレノファと交渉しています。

小野泰副委員長 ちょっと違うことを聞きますけど、レノファの練習がこれから週5日ということで、平日の月曜日から金曜日ということで、一般の方は平日の夕刻と土日が全て使えるということですが、練習試合等もあるんですね。それが平日の昼ならいいにしても、土日があるとかいろいろあるんでしょうけど、現実的に一般の愛好者が使っているのはそれにダブらないですか。愛好者に余り影響するといけないと思いますので、その辺りの使用状況はどうなっていますか。

川崎スポーツ振興課長 平日の利用が逆に少なくて、うちのほうはどうしようかなと思っているぐらいのところですよ。平日の昼間は利用がほとんどありません。夕方6時以降、ナイター施設もありますので、そこについては非常に利用が多い状況です。今言ったのは人工芝のほうですけど、天然芝のほうは平日の利用はありません。たまに土日月の大会であるとか金土日の大会であるとかは平日利用がありますが、それ以外の練習等について一般開放は天然芝のほうはしていません。大会とか選抜チームの練習とかそういうものに貸出しをしている状況です。よって利用者の方と重複するようなことはほとんどないと考えています。

小野泰副委員長 そうしたらグラウンドと今から造ろうとするクラブハウスあるいは既存の施設について、一般の方との競合はないので一切迷惑を掛けることはないということによろしいですか。

川崎スポーツ振興課長 一切かどうか分かりませんが、ほぼ迷惑を掛けることはないかなと思っています、今の利用形態からして。逆に平日の利用が増えていいなと思っています。

岡山明委員 姫井部長から本会議でエンブレムは付けないと言われたんですけど、J1のライセンスを持ったクラブですよ、そういうクラブハウスにエンブレムがないというのはいかがなものかと私は思ったんです。それは確認したいんですけど。

姫井文化・スポーツ振興部長 エンブレムについては未定と、私は付けないとは言ってなかったと記憶していますが、エンブレムについては今後検討したい、付けるかどうかを。

岡山明委員 付けるかどうかではなく、私は付けるべきと思うんですけど。J1のライセンスを持ったクラブハウスですよ。見に来るお客さんもいる中で、写真を撮ると、そのクラブハウスも当然撮りますので、そこにエンブレムがないようなクラブハウスは常識的にもありえませんが、ぜひ設置していただきたいと思います。

姫井文化・スポーツ振興部長 十分検討します。

下瀬俊夫委員 これは以前から議論があって、クラブハウスの設置が具体的にこうやって進んでいくと、当然居住地の問題が出てきますよね。以前からいろんな施設を利用して宿舎という話もあって、可能な限り山陽小野田市に住んでほしいという、そこら辺はただ単にこっちが思うだけではなしに、当然クラブハウスの設置と関連して、きちんとした協議なりが今後あるんじゃないかと思っている。そのときに例えば宿舎の関係なんかはどう考えておられるんですか。

川崎スポーツ振興課長 レノファの居住ですけども、一般的に言いますと練習環境が整ってくれば、その周辺に居住するということになるかと思えます。今この施設を整えることによって、練習環境が整うのではなから

うかと思っていますので、レノファには市内に居住していただきたいという申入れをしています。レノファとしては、各チーム関係者へどこに住みなさいという強制はできません。うちとすれば今、例えば独身寮であるとか居住について提供することができませんので、例えばこの地域の宅建業者なんかとも連携をしながら、あっせんをしていくということも考えながら今レノファにもそういう話をしていますので、一昨日ですか、市長からもレノファへ是非市内居住をとということで強い要望をされました。

下瀬俊夫委員 これまでいろんなことが議論されてきました。例えば雇用促進住宅をどうのこうのみたいな話もありました。もうむちゃくちゃな話だけどね、プロの選手がそんな所にとって耳を疑ったこともあるんですよ。そういうことはもうないでしょうね。

川崎スポーツ振興課長 ありません。

河野朋子委員 居住とかそういったことも含めて、本会議場でも言われていましたけど、経済効果をかなり見込んでいるという話もあったんですけど、これだけの投資をするわけですから、ある程度経済効果というのは具体的に試算はされているのか、数字があれば教えてください。

姫井文化・スポーツ振興部長 レノファの選手が27人で、スタッフが6人で三十数名と、それと家族もいますので、40人前後ぐらい。目標としては最低20人は住んでいただきたい。できたら30人ぐらい住んでいただきたいと、その方向で思っていますし、そのためには住まいの環境こちらも大事になりますので、独身寮はちょっと市としては考えていませんし、レノファもちょっと今すぐ難しいなという声も聞いています。不動産業者あるいは宅建業者と連携しながら、できるだけ市内に住んでいただく誘導と言いますか、そういうことをしながら住んでいただくようにレノファとは話をしています。

河野朋子委員 目標数値まで上げられたんですけど、かなり現実性があると聞きましたけど、いいんですよ。

姫井文化・スポーツ振興部長 目標30人で努力します。

矢田松夫委員 レノファ効果というか、レノファメリットというのは今言われ

たから大体分かりますけど、また話は元に戻るんですが、僕は最初から何でこんなに大金を1企業とかプロ集団に1億3,000万か、投資をしないといけないのか、どうも合点がいかんのですよ。それを本会議の会期中に出すというね、最初の意見に戻るんですが、先ほどの話を聞くとレノファとの交渉をすると3割、4割程度もらってもいいかなって話でしょ。まだ希望的な観測でその話も詰めてないでしょ、全然。例えば企業に投資すれば、それほど返ってくる財源、目に見える形では先ほど言ったメリットを聞きましたけど、実際例えばクラブハウスでも企業から寄附をもらうとか、そういう努力もしないで、全て一般財源で出すって言うんでしょ。例えば名前を市の公用車とかに出すでしょ。例えばあなたの会社の名前を出すからクラブハウスのどこかの壁1枚でも何メートルか、寄附してくれえとか、そういう努力をせずにいきなり訳の分からない、ある日突然ぽんとお金出すでしょ。私はそこがいけないと言うんですよ。そして議会に対する姿勢、対応、途中で出したでしょ。だから私も納得行かないんですよ。唐突でしょ、全てが。

川崎スポーツ振興課長 当然金額も金額なので財源については、企業、市民の協力を得てやろうとは考えています。クラブハウスに企業名を載せたりというような広告、そういうことも考えていきたいと思えますし、市民グループの中にはレノファを応援しておられて、募金活動であったり、募金箱の設置であったりというようなものも考えているとも聞いています。今後は市の動向を見ながらその辺を動き出されるのかなと思っていますので、今回承認されればそういう動きが加速していくんではなからうかと思っています。

矢田松夫委員 最初にお金を出して、あと誰が寄附するんですか。「お金がないから寄附」なら分かるんですよ。先に出すんでしょ。ちょっとそれはおかしいんじゃないですか。例えば、物が無いのに先に品物買って、そして後から寄附してくれでは市民感情としては。熱意というのは皆でクラブハウスが欲しいがお金がないから皆でやろうと。これは扇風機の寄附とは訳が違うんですよ。やっぱり計画性が全然なかった。先にお金を出して、あと誰が寄附しますか。

伊藤實委員長 今の件は説明不足ですよ。パートナーシップでも、両商工会議所なんかも協力しようという声もあるし、先日発足した応援団、そういう部分で、どうして市が本気にならないのかという意見もあったわけよね。雑入についても当初は日本スポーツ振興センターの補助金の話もあ

ったわけよね。なおかつ企業関係、民間の募金というような声もあったわけで、そういう部分については、今後はこういう方針が決まれば、働き掛ける気があるわけでしょう。実際にはこれからのランニングコストも含め、そのような財源は必要なわけだから、そういう部分をまずサッカーを応援しようという人を中心にそういう場を広げて、少しでもこの財源に追加するという方向性でいいんですかね。自分はそう認識していたんだけど。そういう説明もないから、今みたいな意見が出てくるわけよ。実際はどうなんですか。

川崎スポーツ振興課長 そのように努めます。財源の確保については今から努力していきたいと思っています。

下瀬俊夫委員 僕はそういう意見が出るのは本当にごもつともと思うんですね。財政部として、そこら辺の問題意識はどうなんですか。例えば財調をぼんと出してどうぞ造ってくださいということで、おしまいですか。宇部市は今度市庁舎を造るのに国税から金を取ってくるんですよ。かなり長期にわたって交渉したらしいんですね。ようやく国税がオーケーしたと。そういうふうにやっぱり転んでもただでは起きないというぐらいの財政サイドのかなり厳しい対応があったと思うんですよ。市民の協力も含めて、当然レノファの負担金も含めて、そこら辺のことについては一定の基準なり、出し方ということについては考えてなかったんでしょうか。

川地総合政策部長 内部のことですからあんまり言いたくないんですけども、この件について5割は確保してくれということは最初から言ってありません。

中村博行委員 財政的なことをお伺いするんですが、J 1 仕様のクラブハウス、取りあえずスタート地点と思うんですけども、それに伴って、まだ J 1 を目指す上で必要なものがこれからも出てくると思うんですね。今後支援の仕方というものに対して、計画性を持っておられるのか、どこまでやっていくのかというのが大きな争点になると思うんですよ。それには当然市が主導してくれというような当初希望があったと思うんですよ、いろいろな機関から。これはその一環だと思うんですが、今後 J 1 に入るまで、いつになるかは分からないけれどもずっとやるのか。企業あるいは商工会議所そういったものの支援も受けながら、あるいはそちらに手渡すというようなこともお考えの上でやっていかれるのか、その方向性についてお伺いします。

川崎スポーツ振興課長 今回のJ1ライセンスについて要件がいろいろあります。主な要件としてはスタジアム、練習環境の整備、それからレノファ自体の財務の関係というものが主になります。これがクリアできればJ1ライセンスが交付されると。J1に上がるかどうかというのは結果次第になりますので、その結果によってJ1ライセンスが交付されたチームが上位に、その範囲に上がれば、J1に上がるということになりますので、基本的な考え方については、J1ライセンスを今回整備するためにお付き合いさせていただいているということになりますが、勝負事ですからJ1に上がれない、J2残留もしくはJ3に落ちるということもあります。ホームタウンとしてレノファの応援はしっかりしていきたいと思っています。ただ今後の支援については、今回のクラブハウス、この件が最大かなと思っていますが、我々市でやるのはとにかく市民へ知名度を上げていってどんどん市民の一体感の醸成とかそういうものを作りながら、今度はレノファのほうをしっかりと活用してまちづくりにつなげたいと思っています。

中村博行委員 聞きたいのは、方向性というのが例えば市が上限、単年度で、どのぐらいのところまでは支援しましょうというようなものがあれば、また違ってくるんじゃないかと思うんですね。こういうふうに唐突に1億4,000万、市が1億二千幾らですけども、唐突に毎回そういうような形で起こり得るでは困るんですね。ある程度の上限とか、そういった方向性を持って、計画性を持ってやっていかないとその都度混乱を来たすと思います。ですからこういったものにお金がかかるかとかいうものも十分精査された中で、例えば当面交流人口ということからすれば、練習の見学に観客も増えると、そしたらそういう施設も当然要ると思うんですね。そこにそれを造るからには造ったものに見合ういろんなパブリック棟とか、もろもろの用意もしないといけないと。そういったものを考えていけば、毎年それなりの経費が掛かってくると思いますので、その辺レノファにはどのぐらいの投資をしていくんだというようなものがあれば、それ以上掛かれば企業あるいは商工会議所なんかも含めてそういう活動もせざるを得ないというか、もっと一生懸命やられるようになるんじゃないかと思いますので、その辺も考えたらと思いますので、その見解をお聞かせください。

姫井文化・スポーツ振興部長 毎年幾ら上限というのは、現在はないです。考えてはないんですけど、今回練習拠点ということで、すごく大きな予算

を出させていただいているんですけど、今後についてはその都度というのはちょっと変な言い方ですけど、高額なものは今のところ考えてないです。必要な予算、特にまちづくり活性化による必要な予算については、当然財政とも十分話しながら調整していきたいと思いますので、現在は上限が幾らというのは考えていません。

笹木慶之委員 今聞いてびっくりしたんですが、レノファを維持するための財源を市があらかじめ上限決めておくって、とんでもない話だと思います。そんなことはできないと思いますよ。執行部からも答弁がありました、これはこれとして問題であって、先々維持するためって誰が何を維持するんですか。それっておかしいと思いますよ。

中村博行委員 私が申したのは、当然年間のランニングコストも含めて、お金がずっと掛かっていくわけですよ。それに対してどの辺まで支援をしていくのか、というのが問題になると思うんです。ですから、その辺をある程度考えていかないと、無尽蔵にあるわけではないので、その辺を執行部で考えた上で、レノファ自体の積極的な努力というのもあるわけですよ。保育園とかサビエルの高校とか、あるいはレノファを活用することは議会からもいろいろ提言していますから、それに対して当然答えていかないといけない部分もあると思うんです。それにはやはり経費を伴うので、そういう計画性を持った中で、やっていかないとこういう混乱といいますか、突然大金が必要というようなことも起こり得るのではないかとということで、そういう危惧の下に発言をさせていただきました。

姫井文化・スポーツ振興部長 回答が重複して恐縮ですが、維持費については、先ほど300万ぐらいかと思っています。それ以外については先ほど中村委員も言われたように、まちづくりで子供たちのところに行くとかそんな経費が掛かるとかいうことであれば、それは多少あるかも分かりませんが、今のところそれ以外について市がお金を出すというのは考えていません。ただもっとまちづくりのために予算が必要ということであれば、当然財政と十分に調整しながら考えていきたいと思います。市の事業としては今そのように考えています。

伊藤實委員長 中村委員が言われたのは、実は山口市とかが予算化しているわけよ、年間何百万、そういう部分のことを言われたと思うので、今後そうやって、企業誘致でもそうなんだけど、転入条例でもそうでしょ。一

応5年間ほど家屋の固定資産は減免すると。そういう部分についてもこのレノファを企業誘致と考えるのであればどうするのかとか、そういう計画性がなくて説明が唐突に来るから皆さんどうなのかというところになるわけよ。やはりそういうものもちゃんと議案が急に出たとしても事前にそういうことは想定しないといけない話なわけよ。だからこっちから質問する前にさっきの財源についても半分ぐらいは商工会議所とかそういうのに積極的に協力してもらおうようにしますとかそういうことを言わないからどんどん不安が募るわけよ。分かりましたか。

下瀬俊夫委員 3点ほど確認します。さっきからよく分からないのは、建設費の半分程度という話がありましたが、建設費の負担をレノファに求めるという、この方向性は当たり前なんですけど、維持費についてもレノファに求めるんですか。300万と言われたよね。この一部についてもレノファに負担を求めるのか、これが1点です。2点目は今回6月末のJ1申請に間に合うかどうかという、その条件は何ですか。いわゆるクラブハウスを造るかどうかというのが一つの条件ですか。だったら財源問題というのはもっと先でもいいわけよね、どうするかというのは。だから今の条件というのがよく分からないんですよ、何を条件にしているのか。6月末だから出来上がったものではないわけだから、予算が通る段階だけでいいのか。

川崎スポーツ振興課長 レノファの負担についてですが、今レノファのほうと話をしていますのは、建設費に対して大体幾らぐらいというような話です。維持費はその中に入っていません。維持費についてはレノファではないんですけど、例えばパートナーズクラブであるとか、ほかの市民の方とか、そういう方から応援をいただきたいとも考えていますし、そういうお話も出ています。実際にどうなるかは分かりません。J1の申請についての条件ですけども、6月末がまず申請期日になっています。これはJリーグのほうに必要な書類を提出するということになります。あと1点がこのクラブハウスでいうならば1月末に完成、練習環境が整うというのが一つの条件になります。1月末というのが来シーズンの練習スタート、チームが始動するという時期をJリーグから示されて、1月末までに練習環境を整えなさいということが条件です。

下瀬俊夫委員 そうすると維持費の関係はレノファには求めないということですね。それで1月末までに練習環境が整うということが今回の6月末の申請の条件ですか。

川崎スポーツ振興課長 条件の一つとして6月末申請の1月末完成というものです。Jリーグに対する申請書類でも申請期日が異なったものがありますが、今回市がJリーグに申請するものとして、6月末までに建てますということをJリーグが審査できるような書類をまず提出するということです。それが1月末までに完成しないといけないということで工程表を出しての審査が行われます。これが例えば2月、3月、4月ということで建設が延びるような計画を出しても、これはJリーグのほうがJ1ライセンスの交付はしないという条件になっています。

下瀬俊夫委員 確認したいのは、6月末までに予算を計上しなければならないという条件なのかどうかということです。市が基本になって造るという、その契約では駄目なんかですか。

川崎スポーツ振興課長 それは予算の確保が必要だということで聞いています。

姫井文化・スポーツ振興部長 1月末に完成とすると、工事着手の関係があります。今から入札して、それからということになると、工事期間は半年ぐらい見込んでいますので、6月議会で議決を是非いただきますようお願いします。

下瀬俊夫委員 基本的に資料が不足なんですよ。そういう工程表も含めて予算を出すんだったらそれぐらい出さないとおかしいでしょ。1月末がうんぬんって今初めて聞きましたよ。そういうことを無視して議会で審議してくれてどうかしているんじゃないですか。

伊藤實委員長 審査の途中ですが、休憩しましょう。

午後3時25分休憩

午後3時45分再開

伊藤實委員長 それでは、休憩前に引き続き委員会を再開します。いろいろと質疑しましたが、ここでまたスケジュール表が出てきました。こういうものを最初に出すべきものです。いつも言ってるように、言われてから出すのではなく、こういう説明資料は当初に出して、しっかりと理解を

得られるようにしてほしいと思います。説明があればお願いします。

川崎スポーツ振興課長　これは最新のデータではありません。というのがJリーグのライセンス申請が6月の下旬になっていますが、6月の下旬になります。内容については、ライセンス申請を6月末までにして、秋に諸条件がクリアされればJ1ライセンスが交付される見込みです。日本サッカー協会、JFAの助成金については県やサッカー協会とも調整しながら、日本サッカー協会に申請していくということになります。時期は7月の下旬に申請をしたいと思っています。クラブハウスの建設については、7月の下旬から業者決定、それから設計、測量、地質調査、建築申請をして、工事期間である11月の中旬から1月末の完成を見込んでいます。外構については、11月の中旬から12月の中旬を予定しています。

伊藤實委員長　それでは今の建設スケジュールについて、何か質問はありますか。よろしいですか。それではいろいろ質疑をしていましたが、最後に確認事項も含め、何か議員から。

河野朋子委員　長い時間審査した中で、まず1番委員から指摘があったのがやはり議案の上程の時期、その件についてはほとんど全委員が同じ認識だったと思いますので、その辺りは今後そういったことがないようにしていただきたいというのを確認したいことと、それから今回1億4,000万もの事業のうち、基金から1億2,700万を繰り入れてという事業で、しかも1企業というか団体に対してのクラブハウス建設ということで、厳しい財政状況である山陽小野田市がこれだけの一般財源をいとも簡単に出来るような説明に受け止めたんですね。説明をもう少し丁寧にさせていただいて、財源の交渉とかいうことも質問したから答えが返ってきて、そういうことを最初にきちんと説明した上で、この議案について議決してもらえないかという説明が欲しかったと思うんですけど、改めて確認しますが、今回のこの議案の内容ですが、今後この建設に掛かる費用とか維持管理費、かなり市にとっては大きな負担となるわけですけど、これをどのように考えて今後していこうとされているのか確認させてください。

姫井文化・スポーツ振興部長　上程時期については、申し訳なく思っています。今後こういうことがないように十分注意して参りますので、どうか御理解をお願いします。それと分かりやすい説明には十分努めて参りますので、どうか御理解のほうをお願いします。

川崎スポーツ振興課長 建設費のレノファの負担については、今後5割を目標にレノファと交渉を進めていきたいと思っております。それから毎年掛かる施設の維持管理費についても、パートナーズクラブほかいろいろな団体の方にも協力をいただいて、お願いしたいと思っております。

下瀬俊夫委員 レノファがこれから本格的に山陽小野田市に、ある意味では腰を下ろすということになって、地域との関係で言っても、かなり定着してくるということが考えられるわけですよ。ただ一つ気になったのは、こういうレノファ等でまちおこしをする、市の活性化につなげていくという発想があまり感じられないですよ。例えば山口市の道場門前に入ったら、レノファのエンブレムがずっと垂れ下がっているわけですよ。雰囲気そのものがレノファ一色という感じがするわけですよ。これはまちの雰囲気を作るんですね。市役所の前に大変みすぼらしいものが掛かっていますが、実はあれしかないんですよ。例えば駅前からあの通りにずっと街灯があるんだけど、そういうところに例えばエンブレム、そんなに高くなくてもいいと思うんですけど、掛けるだけで、視覚的に全然感覚が違ってくるんですよ。それぐらいの思い入れがあってもいいんじゃないかなと思っているわけですよ。せっかくこういう格好でお金も出すし、来てもらうわけですから、そこら辺の熱意が少し薄いという感じがしているんですが、何かありますか。

姫井文化・スポーツ振興部長 熱意は持っています。とにかくアイデアを出して、例えば市のイベントであるとか、あるいは商業施設のイベントもいいと思うんですけど、そういう活用方法、その他関係部署でそういう連携の会議も持っていますので、職員のアイデアも聞きながら、あるいはパートナーズクラブの皆さんの意見もいただきながら、レノファを起爆剤といいますか、推進力になるように我々としてはやっていきたいと思っております。余談ですけど、通常うちの職員はレノファが練習に週2回ぐらい来ていますが、そのときにはレノファカラー、オレンジ色の服を着ておもてなしというか、小さな意気込みですけど、そういうことも少しずつ広げていって、是非いろんなアイデアを出して、まちづくりにも結び付けていきたいという気持ちは持っています。アイデアを一生懸命出していきたいと思っております。

伊藤實委員長 ほかに。よろしいですか。それでは質疑を終結し、討論はありませんか。

下瀬俊夫委員 5割の説明がなかったらあまり評価できなかった。財政問題が議案提案する上での確かに大きな鍵とされているんですね。それに輪を掛けて説明が非常に悪かった。先ほど謝罪されましたが、ああいう説明で議会を通そうなんて議事をなめているという感じがします。そういう点でパートナーシップ、クラブも含めて5割を目指すということが一つの目標と設定されたということを理解して、今回の議案には賛成したいと思います。

笹木慶之委員 二つほど申し上げます。まず1点はパートナーズクラブ等の問題ですが、これは市の関わり方によって非常に問題が起こる可能性があります。いわゆる税外負担という部分がありますので、関わり方は十分注意をしてもらいたいと思います。それからもう1点は他の競技スポーツですね。これをしっかり担当部として担当してもらいたい。いわゆる他のスポーツも盛んになるようにするというのをよろしく願いしたいと思います。そういうことで賛成の立場で申し上げておきます。

伊藤實委員長 ほかに。よろしいですか。それでは討論を終結し、採決に入ります。それでは議案第60号平成28年度山陽小野田市一般会計補正予算（第2回）について賛成の方の挙手を求めます。

(賛成者挙手)

伊藤實委員長 全員賛成で可決すべきものと決しました。以上で委員会を閉会します。どうもお疲れ様でした。

午後3時55分散会

平成28年6月22日

一般会計予算決算常任委員会委員長 伊 藤 實